

1. 科目名 (単位数)	専門演習Ⅱ (2単位)		3. 科目番号	JNPR2102
2. 授業担当教員	荒木 由紀子、佐藤 友樹、鈴木 美子、高木 麻衣子、中村 裕、西田 太郎、長谷川 有香、林 麻由美、原 久美子、福島 裕、堀 聡子、八重樫 幸雄、山内 健次			
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期	
6. 履修条件・他科目との関係	「専門演習Ⅰ」を履修していること。			
7. 講義概要	本授業では、これまでの大学での授業や実習中の体験から学んできた子どもや子育て、家族、保育・幼児教育などから各ゼミ共通のテーマを選択して協働研究し、その成果を口頭発表やポスター発表、パフォーマンスの上演などの方法で発表することを通して、現代社会のニーズにかなった「こどもの専門家」としての専門性を高めることを目的とする。 なお、本授業は原則として本科目担当教員が分担して受け持ち、ゼミ形式で行うが、内容によっては複数ゼミ合同での協働研究・成果発表でもよい。			
8. 学習目標	1. 主体的に調べたり考えたりすることができるようにする。 2. 研究を通して理解したことや考察したことを整理して発表できるようにする。 3. 選択したテーマに基づく研究内容を説明できるようにする。			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	担当教員による。			
10. 教科書・参考書・教材	特に指定しない。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 主体的に調べたり考えたりすることができるようにする。 2. 研究を通して理解したことや考察したことを整理して発表できるようにする。 3. 選択したテーマに基づく研究内容を説明できるようにする。○評定の方法 ○評価の方法 4分の3の出席を前提に、①課題に取り組む態度30%、②発表の質70%を総合的に判断する。			
12. 受講生へのメッセージ	子ども学科での学びを活かして、卒業研究に取り組むことを期待する。			
13. オフィスアワー	担当教員による。			
14. 授業展開及び授業内容				
01	荒木 由紀子			
子どもを取り巻く様々な環境の中でも特に「社会的環境」に注目し、テーマを見つけて共に進めていきましょう。現在の社会的環境・状況の中で育児をしている保護者は幼稚園・子ども園・保育園に何を求めているのでしょうか。保育教諭として何をどのように保護者や子どもに発信出来るのでしょうか。様々な視点から「社会的環境」についての問題を捉えることによって、保育者としての視点や考え方の幅を広げていきましょう。様々な表現や発信方法を共に学びながら発表に繋げていきたいと思ひます。開講の曜日・時間等は相談の上、決めていきましょう。				
02	佐藤 友樹			
幼児期における様々な運動の体験はとても重要であり、それがこどもの健康問題にも大きく影響してきます。したがって、保育者には「運動」や「健康」について、正しい知識を持つことが必要であるといえます。本授業では、「子ども」×「運動」、「子ども」×「健康」、「運動」×「健康」などの視点から研究を実施することを目的とします。なお、研究の実施において、授業時間外でのゼミ活動も多くなります。以上のことを踏まえ、受講を希望する学生を歓迎します。				
03	鈴木 美子			
乳幼児期の保育施設では、様々な行事が行われています。子どもの日、十五夜、節分、ハロウィン等々、行事には、それぞれ由来や行う意味があります。本講座では、保育の現場で実際にどのような行事が行われているかを調べ、自分たちの興味関心のある行事について研究を深めます。そして子どもたちとともに生活する中で、その行事を行うための指導計画を立案し、手作り教材を作って実践できるようにします。将来の保育実践に生かせる力をつけていきましょう。				
04	高木 麻衣子			
本授業では、受講前までに習得してきたピアノ演奏技術を更に発展させ、ピアノ演奏の可能性を追求します。具体的には、連弾等(1台4手、1台6手、1台8手等)を体験し、アンサンブル能力を高めることにより、『音楽を皆で感じる喜び』、『相手と呼吸を合わせる楽しみ』を学びます。保育現場では、ピアノを弾きながら様々なことを同時にこなす力が必要となります。そのような実践での応用力を養うために、連弾を用い、音楽を多角的に捉えることを目標とします。また、授業最終日にゼミ発表として、学習した曲目の発表会を行います。ピアノの技術向上を望んでおり、通常授業以外の曲目を幅広く学びたい学生であれば、進度は問いません。				
05	中村 裕			
本ゼミでは「健康」に焦点をあて、子どもにとって健康そのものを追求していきたいと思ひています。子どもが心身共に健康に過ごす為には基本的な生活習慣の確立が重要なことはいまでもありません。しかし、今日の日本では子ども達の健康を脅かす生活環境問題が山積みです。そのような環境問題を解決するのではなく実態を明らかにすることが、保育者の支援や援助につながると思ひています。問題点についてディスカッションを重ね、研究テーマを決め調査・研究を進め発表しようと考えています。				
06	西田 太郎			

<p>読書の入り口として、絵本はとても重要な役割を果たしています。絵本では、文字の大きさや色、フォント、絵との関連など、言葉は様々な形式で子どもたちに届きます。しかし、小学校で使用する教科書掲載の物語は、統一された書式によって整然としたカタチで並びます。就学によって子どもたちが会おう物語のカタチは、それまでのものと大きな隔たりがあるということです。</p> <p>本ゼミでは、様々な絵本における言葉の提示方法を参考にしながら、未就学児の会おう物語に新しいカタチを創っていきます。</p>	
07	長谷川 有香
<p>本ゼミでは、今日の子どもや家庭を取り巻く諸問題について、心理学的な手法を用いて研究を行っていきます。テーマの内容は、子どもの発達にかかわる要因の検討や、育児ストレス、仕事と家庭の両立、父親の育児といった現代の親たちを取り巻く問題の中から、受講生の関心に応じて決定されます。本ゼミでは、心理学の文献の講読や調査の実施を行っていくため、一つのテーマについて、じっくりと理解を深め考えてみようという姿勢のある学生を歓迎します。</p>	
08	林 麻由美
<p>本授業では、子どもの表現を支える保育者としての総合的な表現力（身体表現、言語表現、音楽表現、造形表現）を高めるために、様々な表現活動の中から関心のあるテーマを見つけ出し、演習、研究を深めていきましょう。それら表現活動を保育現場で活かせるように練習を繰り返し、一人一人の学生が、子ども達の前で表現することの楽しさを伝えられるように、また、子ども達にとって「良いモデル」になるにはどうしたらよいかを一緒に考えていきましょう。「歌唱」に興味のある学生を特に歓迎します。</p>	
09	原 久美子
<p>保育現場では日常的、かつ様々な行事に合わせて音楽活動が行われています。そのため、保育者には音楽の楽しさを味わい表現できる「技術」と豊かな「感性」が求められます。本演習では、これまでに習得したピアノの実技の技術を発展させ、ゼミメンバーと協同で音楽表現活動の実践（連弾等）を行います。取り組むテーマや楽曲については春期中に相談し、メンバーの関心に基づき決定します。実践的な演習となるため演習以外での準備時間が必要となります。発表に向け意見を出し合い、より良いものに改善していくという過程を通し、音楽表現という角度から保育の表現技術を高めていくことを目標としています。</p>	
10	福島 裕
<p>幼児・児童を取り巻く教育環境を概観すると、教育制度や経済格差、コロナ禍における諸問題、虐待やいじめ、養育等に関する人権問題、子どもの権利条約の周知・・・等、様々な課題があります。また、教育環境の一つとして指導者として自らの資質や能力についての課題も浮かび上がってきます。子ども達の教育環境を、広い視野から認識を深めるとともに、身近な視点からも捉えながら、ゼミ生が取材や議論を通して各自の課題に向き合い考察を深めていきます。</p>	
11	堀 聡子
<p>本ゼミでは、子どもと家族に関わる今日的な課題について理解を深めます。例えば、育児不安、児童虐待、DV、仕事と子育ての両立困難、ダブルケア、子どもの貧困、多文化保育・子育てなど課題は多岐にわたっています。ゼミメンバーで取り組んでみたいテーマを自由に選び、調査研究を行います。昨年度は、絵本を題材に、人気の絵本の中で子どもや家族がどのように描かれているかを分析しました。意見を自由に出し合いながらディスカッションを行い、考えを深めるプロセスを重視したいと思います。</p>	
12	八重樫 幸雄
<p>本ゼミでは、福祉の心を持ち、子どもや保護者の気持ちを理解でき、気概をもって働ける人を目指して卒業研究に取り組みます。インクルージョンとしてのムーブメント教育・療法、障がい児者への支援や親への教育相談、園の相談体制などについて、現場でのフィールドワークも取り入れながら調査・研究に取り組みます。また、幼稚園や保育園、放課後ディサービスなどへ出向いて、ムーブメント教育・療法の実習にも取り組みます。これまでの卒論テーマとしては「保育におけるムーブメント教育の活用」「親の障害受容過程について」「現代の障がい児保育とリトミック」「障害者総合支援法から支援につなげる」などがあります。</p>	
13	山内 健次
<p>現代に社会に生きる子どもたちは昔とは異なり、からだをあまり使わない生活を送るようになったことで、多くの問題を抱えるようになりました。例えば、からだが疲れないことで眠気があまり無いことや、お腹が減らないことで食欲がないなど、生活リズムが崩れてきています。また病気でもないのに「お腹が痛い」「頭が痛い」といった不定愁訴のこどもが増えています。これらを解決するには、こどもたちの身体活動量を意図的にアップ働きかけが必要となってきました。この演習では、こどもたちが“楽しくからだを使って楽しめる遊び”を幼稚園や保育園の現場で提供できるよう、多くの支援内容や支援法を身に付けてもらうことを目標としています。</p>	